

文教厚生常任委員会行政視察概要

令和4年7月28日（木）
於 渋谷区議会 大会議室
午前10時20分～午後0時00分

1 調査の概要・説明

…………… スポーツ部長、スポーツ振興課長、担当課長
「シブヤ「部活動改革」プロジェクトについて」

スポーツ庁が令和5年度以降の休日の部活動を段階的に地域移行する方向性を示していることから、渋谷区においては、生徒のニーズに応える部の設置及び学校の働き方改革を見据えた部活動の地域移行を実現させるため、令和3年度から先行して、シブヤ「部活動改革」プロジェクトを実施している。本プロジェクトの推進にあたり、生徒のニーズに沿った部活動の設置と部活動の合同化の推進、及び教師の負担軽減を考慮した適切な指導體制の構築を目的として、令和3年10月に「一般社団法人 渋谷ユナイテッド」を設立し、同年11月から試行的に9部活動を設置、令和4年4月から9部活動と1イベントの運営を行っている。

渋谷ユナイテッドは、サッカー、ボウリング、ダンス、フェンシング、eスポーツ、将棋、ボッチャ、ラグビー、料理、硬式テニスで構成されており、それぞれ有名企業や団体等が支援事業者となっている。対象は渋谷区立中学校の1～3年生で、全対象者の約1割にあたる約220人が参加している。財源については、区の補助金、委託金のほか、協賛スポンサー収入や、各部活動の会費等で賄われている。各部活動の会費は、各種目にかかる教材費や活動の実施回数等により、0円～20,000円程度とばらつきがある。

運営については、渋谷区と渋谷ユナイテッドが業務委託契約を行い、渋谷ユナイテッドが、学校や公立・民間の施設との調整、協力企業・団体との専門指導員派遣の業務委託、教員や生徒への情報提供や募集案内等を行っている。また、区内の指定管理者や委託業者、区の体育協会や関係団体等と連携することで、現在10種目の部活動運営業務を担っている。

今後については、既存の部活動と共存しながら、どのように差別化を図っていくか、教員や保護者等にプロジェクトの意義・方向性を周知し、理解・協力を得ること、技術指導者・部活動マネージャー等の人材確保や教育の質の確保等が課題となっている。また、教育委員会と学校の連携強化や、資金の管理、参加者への連絡手段の構築等も課題として挙げられている。

2 主な質疑応答

問 大会への参加についてはどのように行っているか。

答 現在はニュースポーツや既存の部で出場人数に達していない種目等を中心に選定しているので問題は生じていないが、今後、既存の種目を地域移行する際の籍の問題等は、今後の課題である。



問 種目の選定はどのように行ったのか。

答 子供からのアンケートを基に、活動場所や経費、地域性なども踏まえて検討した結果、現在の10種目を選定した。今後、順次拡大を検討していく。

問 渋谷ユナイテッドには希望者だけ参加しているのか。

答 既存の部と渋谷ユナイテッドの二重籍となっている。土曜日の渋谷ユナイテッドの活動については、基本的に希望者だけの参加となっているが、今後、渋谷ユナイテッドに移行していくにあたっては、全員参加となる予定。

問 子供、保護者、教員の反応は。

答 子供、保護者からは、既存の部にはない活動ができることや、専門的な指導を受けることができることから、好評を頂いている。また、教員も、休日の部活動の負担が軽減されている。

問 既存の部活動と渋谷ユナイテッドとの指導のギャップは。

答 合同練習等を通じて指導者同士のコミュニケーションを図り、既存の部の顧問と渋谷ユナイテッドの指導員との指導に大きな差が出ることがないように取り組んでいる。また、教員が渋谷ユナイテッドの指導員として活動できるよう、法整備を含めて検討している。

問 会費を払えない家庭への支援はどのように考えているか。

答 今までは顧問の教員にボランティアで指導を行ってもらっている現状があった。地域移行を進めるにあたり、その点を保護者に理解してもらう必要が

ある。また、会費を払えない生徒への対応は、都・区でどのように負担するのか、助成制度を検討する必要があると考えている。

以 上